

2020年11月1日 司祭 越山 哲也
八戸聖ルカ教会

諸聖徒日 説教

「心の貧しい人とは聖なる人」

〔旧約聖書続編〕 瀋書 44:1~10、13~14
〔使徒書〕 ヨハネの黙示録 2:1~8
〔福音書〕 マタイによる福音書 22:34~46

主の平和が皆さんと共にありますように。

「先祖たちの中には、後世に名を残し、輝かしく語り継がれている者のほかに、忘れ去られた者もある。彼らは、存在しなかったかのように消え去り、あたかも生まれでなかったようである。」

(瀋書 44:8~9)

「先祖たちのなきがらは安らかに葬られ、その名はいつまでも生き続ける。」(瀋書 44:14)

諸聖徒日は、有名無名を問わずすべての聖人、そして、天国で神のもとにいるすべての人を記念する日です。諸聖徒日(11月1日)と翌日の諸魂日(11月2日)はいわば日本でいえばお盆に相当する日です。日本ではお盆とお彼岸にお墓参りをする慣習がありますが、教会はこの時に墓参の祈りをする慣習があります。そして、諸聖徒日から始まる11月を死者の月として位置付けて過ごします。これは1年の教会暦の終わりの月にあたり、大変意義深いことだと思います。私たちの信仰は地上の生活の死で終わることなく天上の生活へと続いていくこと、そして神の国が完成する時にこの世界を完全に回復し、平和の王としてこの世に来られるイエス・キリストの再臨を待ち望むことを想起するのです。

ところで聖人とは誰でしょうか。皆さんが洗礼名として名前を頂いている聖人がどのような生涯を送ったのでしょうか。私たちとは全く違う聖なる次元を生きたのでしょうか。

そうではありません。全員が弱さをもつ人間です。そして中には最初は神に背中を向けて自己本位な生き方をしていた人もいたと思います。しかし、その人の人生の中でイエス様と出会い、洗礼を受けてキリスト者となっていき、聖人とされていったのだと思います。

「聖」の漢字は、王様に耳と口を捧げるという成り立ちです。ここでいう王様はいうまでもなく

イエス様です。イエス様のみ言葉に耳を傾け、信仰を告白して己のすべてを捧げていくことが「聖」の意味です。

旧約聖書続編汚書にこの世界では誰からも目に留められずひっそりと死んでいった、もしくは孤独な死を迎えた人のことが触れられています。しかし、神さまは彼らを決して忘れることなくひとりひとりの名前が呼ばれていることが書かれています。

私はこの諸聖徒日に読まれる汚書のみ言葉が大好きで、毎年慰めを受ける箇所です。限界のある私たちが生きるこの世界です。今もこの瞬間も多くの人が亡くなっています。どうぞ神様が彼らを迎え入れてくださいますようにとお祈りいたします。

「心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。」(マタイ5:3)

イエス様の山上の説教と呼ばれる冒頭の箇所です。心の貧しい人とは「心から神様を信頼して生きる人々」という意味です。つまり耳と口をこの世界を支配される真の王であるイエス様に捧げる人は幸いであると言われているのです。そして天の国が与えられているのです。

「聖化」という言葉があります。ぜひ心の中に覚えていてほしい言葉です。意味は、信仰は自らが作り上げられていくものではなくて、神様によって育てられていき、聖なる者へと成長させられていく変化していくということです。

いつも神と人々の前に謙虚に自らを省みて、私たち一人一人の信仰がますます神様によって育てられて、耳と口をイエス様に捧げていくことができますようにと願います。